令和５年度第５回士別市教育委員会会議録

１．日　時　　令和５年６月２９日（木）午後３時１５分～午後４時０２分
２．会　場　　士別市役所２階　庁議・来賓室
３．出席者　　教育長　　中　峰　寿　彰　　生涯学習部長　　三　上　正　洋
　　職務代理者　馬　場　千　晶　　学校教育課長　　須　藤　友　章
　　委　員　　加　藤　洋　之　　合宿の里・スポーツ推進課長
　　委　員　　山　田　敦　久　　徳　竹　貴　之
　　委　員　　多　田　千　鶴　　社会教育課主査　　清　水　孝　幸

４．議　件（発言者、議事要旨及び議決事項）

１　教育長挨拶

本日は、こののちの総合教育会議に向けて協議を行い、市長と委員、事務局を含めて現時点における課題を共通認識をもちたいと考えているところである。本年度もすでに３ヵ月経とうとしているなか、例年の４月とは異なる状況もあるため、現時点での課題や政策・施策・事業がどういう状況で進んでいるかという点も共通認識し、今後の教育行政をいかに充実したものにしていくかということを視点としたい。

総合教育会議の次第にあるとおり、教育委員会会議において、忌憚のない意見をいただきたい。

本日もよろしくお願いする。

２　議事について

○中峰教育長　進行

議案第１０号　「士別市総合教育会議の開催について」簡単に説明する。

「１．学校教育」についてポイントのみを説明する。

（１）「令和の日本型学校教育」の推進についての課題としては、士別東高校のＩＣＴ機器環境の整備が進んでいないことが一つ。士別南中学校のパソコン教室にあった端末を活用するということで予定していたが、ネットワークやパソコンソフトに課題があり、実際には設置が進んでいなかった。加えて光回線導入の予算措置が遅れた状況にあるなか、できるだけ早くＩＣＴ環境の整備を進めていきたい。

「ＡＬＴや外部人材による学習活動の充実」については、ケイティ先生が一時帰国している間、中学校担当のサム先生の奥さんベイリー先生が小学校担当ＡＬＴとして着任している。多寄地区では外部人材を積極的に活用したいと学校側と本人の意向が一致しているが道教委の制度面での手立てがない状況にあり、我々も新たな手立てであるとアプローチしているがなかなか理解が得られないところ。

○須藤課長

「デジタル教科書」について、以前の教育委員会議において、実際に使っているところを見てみたいとの意見があったが、まだ学校との調整を終えていない。後日、日程調整をしていきたい。

○中峰教育長

（2）「組織力と連携の強化のもとでの学校教育の推進」について、組織体制の部分では、士別小学校で数日間、石橋学校教育アドバイザーが補完的に学校をサポートした。

社会教育関係職員が、４年前から自主的に研修をしている。社会教育課の外、公民館、博物館、朝日支所の職員を含め、学校教育課の職員も一部入っている。教育委員会職員が自発的に研修しようと様々な取組をしており、本日は上川教育局から担当主査を講師として招いて研修をしている。

（4）「外部人材や企業等の協力による体験的学びの提供」について、トヨタ・ダイハツなど協力してもらっている中、トヨタ自動車試験場において、博物館事業として自然観察会の開催にご協力いただいている。

（6）「いじめ防止と不登校児童生徒対策の充実」について、これらに加えて、虐待の問題がある。士別市においても虐待の事案があり、関係機関との連携のもとに対応に努めている。

（7）「特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実」について、先日、特別支援学級設置校連絡協議会において、４年ぶりに合同ゲーム学習が実施された。参加した子どもや保護者から「とても良かった」との声があった。児童生徒、保護者それぞれの交流の場となっており、大切な取組と考えている。

（8）「士別東高校だからこそできる教育の推進」について、コミュニティスクール（学校運営協議会）において、五十嵐紀子氏が会長に選任された。教育振興会において、地域企業の支援と協賛金をいただいている中で、企業訪問を経て、新たに４社の支援をいただくことができたところ。

次に「２．社会教育」について、子どものキャリア教育では、「士曜子ども文化村」を「士別ふるさと体験広場」と名称変更したところ。が基本的には、自然体験・職業体験・文化芸術体験の３コースで構成されている。各６回の計１８回開催する。７月８日には、士別市塗装組合青年委員会の協力のもと塗装業体験を開催する。

（2）「青年層や高齢者の学びの推進」について、本年度において、九十九大学の卒業式と閉校式を開催することになっている。特に多額の予算措置はしておらず、小規模ながらも気持ちの込もった式典になればと考えている。

（3）「幅広い世代の主体的な学習活動の促進」について、「まなびガイド」の活用促進のもと、ＰＴＡ学年レク等で積極的に活用されているところ。本年度は、７件の申請があり、５件の実施が決定している。

次に「３．スポーツの振興」について、オリンピックムーブメントに関しては、１０月９日を最終日とする市民皆スポーツと健康増進を促進する取組を検討している。健康増進啓発活動として、ハーフマラソンに連動した「健康づくり講演会」を７月１９日１８時から市民文化センター小ホールにおいて開催する予定であり、順天堂大学医学部病院の玉谷卓也先生から「健康長寿～腸内環境と運動」と題した講演をいただくことになっている。

（3）「各種スポーツ教室やオリンピック教室等の実施」について、合宿選手によるスポーツ教室は、昨年同様、ＪＰ日本郵政グループが士別南小学校、ダイハツ工業が士別小学校、その他の学校にも合宿入りしている陸上チームによる指導を計画しており、現在、日程調整中である。

（4）「トップアスリートと市民との接点づくり」について、市民による「スポーツ合宿サポート隊」の活動が始まっている。加えて、昨年度から開始した「ジョイラン交流会」として、昨年のコニカ・ミノルタに協力をいただいた内容を踏まえ、高校生以上の一般の方にも走り方教室を実施するところであり、今年は積水化学陸上部の協力を得て、７月２９日に実施する予定である。

次に重点的施策・事業の（3）「学びの場におけるＩＣＴの活用促進」について、上士別・朝日におい

て供用開始された光回線に地域内の各学校の通信環境を接続する予定である。多寄・温根別については、環境整備は終わっているところ。

次に「中学校部活動のあり方」については、準備会を３月２９日に１回目を開催した。この会議での議論をベースに、再度準備会を開催し、協議会として正式に検討を進めていく考えである。

次に「朝日地区における義務教育学校」について、資料３に令和５年度の義務教育学校の設置及状況を掲載している。上川管内では、占冠村のトマム学校が義務教育学校として最も早い設置となる。占冠村には他に小中一貫校がある。いずれにしても、子どもの数が少なく専科教員が配置できないという問題をクリアしていくことになると、小学校と中学校の両方の免許を有している教員の配置が必要になるが、少子化の中での学校の存続という視点では、その選択肢のひとつが義務教育学校ということになる。

昨年度から比布中央学校が設置され、初代校長には、かつて西小学校で校長を務めた三浦秀也校長が就任しており、その準備段階で校長だったのが今の南中の富居校長である。また、もう一つ、富良野市の樹海学校も昨年度から設置され、準備段階では上士別小学校の杉本校長が関わってきた。そういう意味では、本市で義務教育学校を設置していく場合に、様々なことを知っている方がいたり、繋がっていたりするので、よりリアルな情報を得られると考えている。できるだけ早く、朝日も準備に入りたいと考えている。そんななか、先立って山田委員からもお話があったように、学校関係者には説明会を実施してきたが、それ以外の方々も義務教育学校ってどういうものかを知りたいとの意向もあるとのことであり、できるだけ早い時期に地域向けの説明会を開催したいと考えている。

次に「教科用図書の採択」について、基本的に４年サイクルで教科書が改訂され、４年ごとに教科書を選ぶところだが、管内の教育長による協議会での採択を経て、最終的には各市町村教育委員会が決定することになる。検定済みの教科書が数多くあるなか、旭川市を除く上川管内の２２市町村で第６地区の採択協議会として必要な手続きを進めてきている。教科ごとに先生方による小委員会を構成し、調査研究を進めていただいている。

以前は、南部では富良野市、中部では東神楽町、北部では名寄市が、長年、事務局を担ってきたが、昨年度からは士別市教育委員会が事務局として採択業務を担っている。誰が委員となっているかは、教科書採択の公正性を期すため、採択終了後まで非公開となっている。

次にスポーツイベントの予定については、資料５のとおりである。今年度は、各大会前夜でのレセプションも開催の予定である。

次に「各スポーツ/文化施設」について、直面する課題としては公共施設マネジメント計画にもあるがスキー場が２カ所あることが特に課題とされていて、新たな仕組みの中で存続できないかを基本に考えていくことになっている。そうした意味では、行政だけではなく、様々な団体や民間の力も模索していくことになる。スポーツ施設以外には、冬期間クローズしている博物館について、通年的に開催日数をコントロールしながら維持していくことを検討しているところ。これらのほか、体育館や文化センター大ホールなども、老朽化が進む中で、今後のあり方を検討していかなければならない。このようななかで、例えば企業版ふるさと納税の活用もあるが、ネーミングライツについても積極的に検討すべきと考えているところである。

○馬場職務代理者

教科用図書採択教育委員会協議会の上川北部における事務局を今までは名寄市が担っていたが、士別市になった経緯を確認したい。

○中峰教育長

士別市においても、指導主事を配置したところでもあり、事務局を担うことが可能であるとの管内教委連教育長部会での議論も経て、本市が担うことになった。４年スパンで、北部・中部・南部で事務局を担ってきた経緯があり、どこかが必ず担わなければならない。

○加藤委員

義務教育学校の視察等は行っているのか。

○中峰教育長

実際に、話を伺いに赴いたのは、開設直前の比布中央学校であり、私と須藤課長とで教頭先生から話をお聞きした。

○加藤委員

士別市での方向性はどのようなものか。

○中峰教育長

占冠村立トマム学校がイメージに近いと思う。比布中央学校の場合は、それなりに規模が大きい学校である。９年間を見通した学校づくりに主眼を置くことは共通であるが、少ない児童・生徒数のなかで、効果的な学びを保障することが中心となるところは、若干の違いがある。富良野市立樹海学校も発想的に近いものがある。これらの学校を参考にするべきではないかと考える。義務教育学校設置に向けて、やらなければいけない内容は、比布中央学校においても確認できる。例えば、校歌を新たにつくることや、校章なども含めて、新たにしていかなければならないなど、早め早めに取り組まなければならないことは沢山ある。歴史的経過や地域文化などのほか、サンライズホールでの関わりなども検討にあたって配意する必要がある。

午後４時０２分　会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署　名　者　中峰寿彰

会議録調整者　須藤友章